

アート・リサーチセンター活動記録

———2006年度 (2007年1月～3月)

■「もうひとつの京焼・化学陶器展－五条坂・道仙化学製陶所窯跡の発掘調査－」

2007年1月10日(水)～30日(火) 立命館大学アート・リサーチセンター 閲覧室

■第157回コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM) 研究会

2007年1月11日(木)・12日(金) 立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命21

主催：情報処理学会コンピュータビジョン研究会

共催：立命館大学21世紀COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」

■もうひとつの京焼・化学陶器展関連企画講演会「京都における近現代考古学の現状と課題」

2007年1月27日(土) 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

立命館大学歴史考古学ゼミ「道仙化学製陶所窯跡の発掘調査について」

萬野翔子(立命館大学大学院)「陶器製手榴弾の考古学的研究」

小森俊寛(財団法人京都市埋蔵文化財研究所 資料課主任)「京都市内の校庭に埋められた武器」

角南聡一郎(財団法人元興寺文化財研究所 主任研究員)「軍国絵馬と軍国人形の考古学」

朽木量(千葉商科大学政策情報学部 助教授)「『近現代』の考古学とその方法論的射程」

討論「京都における近現代考古学の現状と課題」

■国際シンポジウム「バーチャル・シティ研究の新たな展開-New Trends on Virtual City Research-」

2007年1月29日(月) 立命館大学創思館 カンファレンスルーム

Mike Batty (CASA, UCL) 基調講演「バーチャル・シティ研究の展開」

Andy Hudson-Smith (CASA, UCL) 招待講演「バーチャル・ロンドン」

矢野桂司(立命館大学地理学教室)「京都バーチャル時・空間」

河角龍典(立命館大学文学部)「バーチャル平安京」

中谷友樹(立命館大学地理学教室)「バーチャル京都の活用」

■上方芸能研究会『戦後関西の演劇動向』

2007年2月15日(木) 立命館大学アート・リサーチセンター 第2会議室

講師：権藤芳一(演劇評論家)

■立命館大学21世紀COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」最終成果シンポジウム

『京都アート・エンタテインメント研究の挑戦—日本文化研究のグローバルハブ構築のために—』

2007年2月19日(月)・20日(火) 京都観世会館/立命館大学創思館 カンファレンスルーム

【1日目】

片山清司((財)片山家能楽・京舞保存財団常務理事)「能と文化の伝承」/半能「敦盛」

金田章裕(京都大学大学院文学研究科教授)「人文学とデータベース—人文学の地平」

原島博(東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授)「コンテンツの時代へ—ITは文化をめざす—」

熊倉功夫（林原美術館館長）「京都の茶の湯と工芸」

赤間亮（立命館大学文学部教授）「京都アート・エンタテインメント創成研究」プロジェクト発表

八村広三郎（立命館大学情報理工学部教授）「京都アート・エンタテインメント創成研究」プロジェクト発表

【2日目】

川嶋將生（立命館大学文学部教授）「京都アート・エンタテインメント創成研究」プロジェクト発表

矢野桂司（立命館大学文学部教授）「京都アート・エンタテインメント創成研究」プロジェクト発表

田中弘美（立命館大学情報理工学部教授）「京都アート・エンタテインメント創成研究」プロジェクト発表

■「テレビCM研究の現在」

2007年2月26日（月） 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

Jean-Christian Bouvier（「世界のCMフェスティバル」プロデューサー）「コマーシャルフィルムを通して見た欧州連合」

赤間亮（立命館大学文学部教授）「古典芸能を使ってテレビCM」

■International Symposium on Intelligence Techniques in Computer Games and Simulations

2007年3月1日（木）・2日（金） 立命館大学びわこ・くさつキャンパスクリエーションコア 会議室

———2007年度（2007年4月～12月）

■『China and the Chinese in Hokusai's Book Illustrations』（北斎絵本のなかの中国と中国人）

2007年4月10日（火） 立命館大学アート・リサーチセンター 会議室

講師：エリス・ティニオス（リーズ大学教授）

■日本伝統音楽の魅力を探る レクチャーコンサートVol.2「謡曲はおもしろい」

2007年5月10日（木） 府民ホールアルティ

■2007年度春期連続講演会第1回「能装束-武家文化の美意識-」

2007年6月30日（土） 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

講師：山口憲（山口能装束研究所所長）

■「風俗絵画と都市イメージ」研究会（非公開）

2007年6月30日（土）・7月1日（日） 立命館大学アート・リサーチセンター 会議室

■能楽写真家協会 写真展

2007年6月25日（月）～7月8日（日） 立命館大学アート・リサーチセンター 閲覧室

■立命館大学アート・リサーチセンター所蔵能絵展

2007年6月25日（月）～7月6日（金） 立命館大学アート・リサーチセンター 閲覧室

■立命館大学映像学部開設記念連続講演会「地域を元気にする映像コミュニティ政策の現状と展望」

2007年7月5日(木) 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

講師：樋渡啓祐(佐賀県武雄市長)

■2007年度春期連続講演会第2回「身体との『対話』、身体を通じた『対話』～コンテンポラリー・ダンス」

2007年7月7日(土) 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

講師：坂本公成(演出家/振付家/ダンサー)

■2007年度春期連続講演会第3回「映像文化の一潮流～もう一つの、極小かつ膨大な映像史～」

2007年7月11日(水) 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

講師：松本夏樹(武蔵野美術大学・大阪芸術大学非常勤講師、精神史・映像史研究家)

小崎泰嗣(活動弁士・映写技師)

■立命館大学映像学部開設記念連続講演会「体験型エンターテインメント～創造性と技術～」

2007年7月12日(木) 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

講師：クリストファー・ステイプルトン(Affiliate Professor, Media Convergence Laboratory
University of Central Florida)

■第十一回能装束・能面展～能にみる奈良期と平安期の女性たち～

2007年8月1日(水)～3日(金) 京都文化博物館6F

■ドイツ・ロマン主義の<現在>-美術、音楽、思想から-

2007年9月21日(金) 京都国立近代美術館 講堂

講師：ハンス・ディッケル(エルランゲン=ニュルンベルク大学教授)

神林恒道(立命館大学教授)、藤野一夫(神戸大学教授)

司会：仲間裕子(立命館大学教授)

■映画復元の現在—デジタル復元と真正性

2007年10月1日(月) 立命館大学以学館2号ホール

<第一部>『学生三代記 昭和時代 [マキノ・グラフ版]』デジタル復元版上映

<第二部> 映画復元シンポジウム

板倉史明(東京国立近代美術館フィルムセンター研究員)「フィルム・アーカイヴにおける映画復元」

五十嵐真(松竹株式会社)「松竹のデジタル復元『砂の器』『二十四の瞳』の事例」

越智武彦(株式会社イマジカ映画本部)「デジタル復元の技術」

パネルディスカッション

■GCOEセミナー(10月)

毎週火曜日 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」の研究プロジェクトに新たに加わった若手研究者、博士号を目指す大学院生らによるフレッシュ、かつ、ユニークな研究発表(毎月開催)

10月9日

千羨幸 (本拠点ポストドクトラルフェロー) 「新石器時代から無文土器時代への住居様相の変化」

井上学 (本拠点ポストドクトラルフェロー) 「モバイルGISによる文化財フィールド調査」

10月16日

花田卓司 (本拠点研究支援者) 「南北朝期の軍事関係文書からみた京都」

石上阿希 (本拠点研究支援者) 「西沢一風の春本と浄瑠璃との関連性—『好色極秘伝』について—」

10月23日

上田学 (本拠点研究支援者) 「映画常設館の出現と都市の変容」

鶴田清也 (本拠点研究支援者) 「バーチャルダンスコラボレーションシステムのためのリアルタイム動作認識」

10月30日

Sanjay RANA (Research Fellow, Department of Civic and Environmental Engineering, UCL, UK) 「200年前のロンドン蒸気機関車サーカスの場所を巡る研究」

■GCOEランチタイムセミナー

2007年10月23日 (火) 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

塩出徳成 (ニューヨーク州立大学地理学部 助教授) 「GIS環境を利用した三次元時空間都市モデルの開発」

■GCOEセミナー (11月)

毎週火曜日 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

11月6日

楠井清文 (本拠点ポストドクトラルフェロー) 「1940年代朝鮮の日本語小説研究—雑誌『国民文学』の分析を中心に—」

李基星 (本拠点ポストドクトラルフェロー) 「近畿地方における水田稲作農耕開始期の様相」

11月13日

戸所泰子 (本拠点研究支援者) 「都市景観形成に資する京町家の色彩—景観DBの構築に向けて」

金子貴昭 (本拠点研究支援者) 「版木資料のデジタルアーカイブ—意義と課題—」

11月20日

松葉涼子 (本拠点研究支援者) 「浮世絵にみる歌舞伎演出の絵画的表現—「画題」との関連に着目して—」

大矢敦子 (本拠点研究支援者) 「明治大正期の日本映画界を取り巻く環境—尾上松之助を通して—」

11月27日

John O'Brian (University of British Columbia) 「20世紀美術におけるカナダと日本の風景画の立場」

■ポール・ビニー作品展「日本版画の伝統と継承—西洋からのまなざし—」

2007年11月5日 (月) ~30日 (金) 立命館大学アート・リサーチセンター 閲覧室

■MPR2007

2007年11月16日 (金) ・17日 (土) 立命館大学びわこ・くさつキャンパス

■2007年度秋期連続講演会第1回「ポール・ビニーが語る日本版画の伝統と継承」「歓栄堂による彫りと摺りの実演」

2007年11月10日（土） 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

講師：ポール・ビニー（アーティスト）

■2007年度秋期連続講演会第2回「映画制作ここにあり」

2007年11月26日（月） 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

講師：大森康宏（立命館大学 映像学部長）

■日本伝統音楽の魅力を探る レクチャーコンサートvol.3「琵琶楽はおもしろい」

2007年11月29日（木） 府民ホールアルティ

■2007年度秋期連続講演会第3回「ナイジェリアの舞踊と社会」

2007年12月6日（木） 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

講師：クリス・ウゴロ（ベニン大学講師）、オースティン・アサグバ（ベニン大学教授）

■「デジタル・ヒューマニティズの可能性—Web コミュニティが拓く世界、新たな人文学への挑戦—」

2007年12月19日（木） 立命館大学 東京キャンパス

■国際シンポジウム「モーションキャプチャー技術と身体動作処理」

2007年12月21日（金） 立命館大学創思館 カンファレンスルーム

「舞踊のデジタルアーカイブプロジェクトについて」

講師：八村広三郎（立命館大学）

「主成分分析に基づく日本古典舞踊「地唄舞」のらせん動作の定量化」

講師：吉村ミツ（立命館大学）

「コーパスアプローチによる舞踊動作解析：ラバン（ラバノーテーション）XMLを用いたバリ舞踊の事例研究」

講師：中村美奈子（お茶の水女子大学）

特別講演「アニメーション作品の最新トレンド」

講師：Mario Perez (Motion Analysis Studios, USA)

招待講演「舞踊の身体動作の表現とアニメーション」

講師：Thomas Calvert (Simon Fraser Univ., Canada)

「身体動作の感性情報処理」

講師：阪田真己子（同志社大学）

「日本舞踊教育支援のためのCGアニメーションの生成—日大ORCNANAプロジェクト—」

講師：入江寿弘、丸茂美恵子他（日本大学）

「仮想空間におけるピアノ演奏動作の生成」

講師：関口博之（立命館大学）

「負荷分散のための並列システムを用いた手指動作の計測手法の検討」

講師：小島一成（神奈川工科大学）

「没入型仮想環境におけるバーチャルヒューマンとの舞踊コラボレーション」

講師：鶴田清也（立命館大学）

「今日のアフリカの社会とダンスのデジタルフロンティア—ケニアを中心として—」

講師：遠藤保子（立命館大学）

「日本舞踊における足の動きと筋電図の定量的解析」

講師：崔雄（立命館大学）

主催：文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（立命館大学）

協力：(株)ナックイメージテクノロジー

■「洛中洛外図屏風の総合的アーカイブと都市風俗の変遷」プロジェクト研究会（非公開）

2007年12月26日（水）・27日（木） 立命館大学アート・リサーチセンター 第2会議室

■GCOEセミナー（12月）

毎週火曜日 立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

12月4日

永井一彰（奈良大学文学部教授）「板木は語る」

12月11日

桐村喬（本拠点研究支援者「地図情報のカタログサイトの開発—Web上の地図カタログ—」

八村広三郎（本拠点サブリーダー）「デジタル・ヒューマニティーズ関連の学会等について」

12月18日

松本郁代（立命館大学衣笠総合研究機構ポストドクトラルフェロー）「海外における日本研究〈文系〉の意義と課題」